

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 133 人

② 数学 133 人

5 留意事項

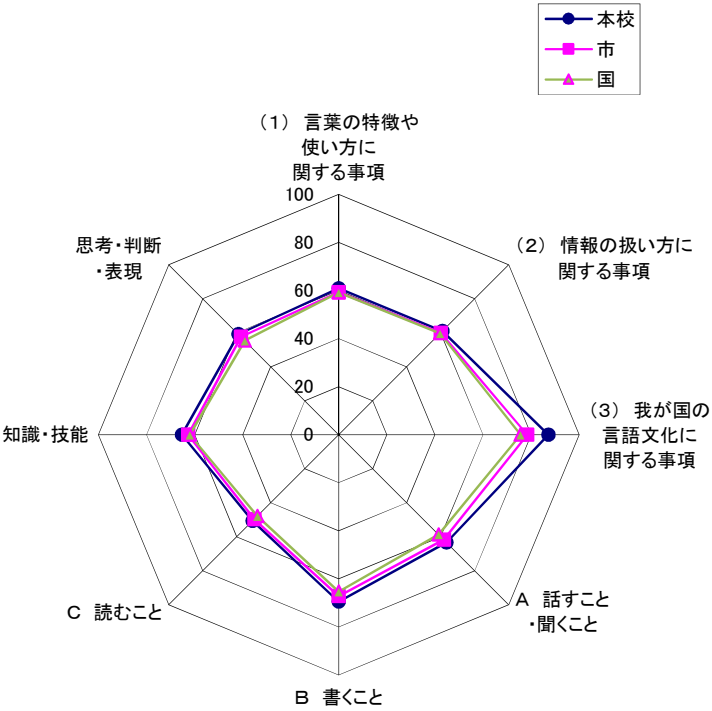
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	60.9	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	60.9	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.2	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	63.4	61.8	58.8
	B 書くこと	69.5	67.2	65.3
	C 読むこと	50.8	49.7	47.9
観点	知識・技能	65.3	62.7	62.0
	思考・判断・表現	59.1	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

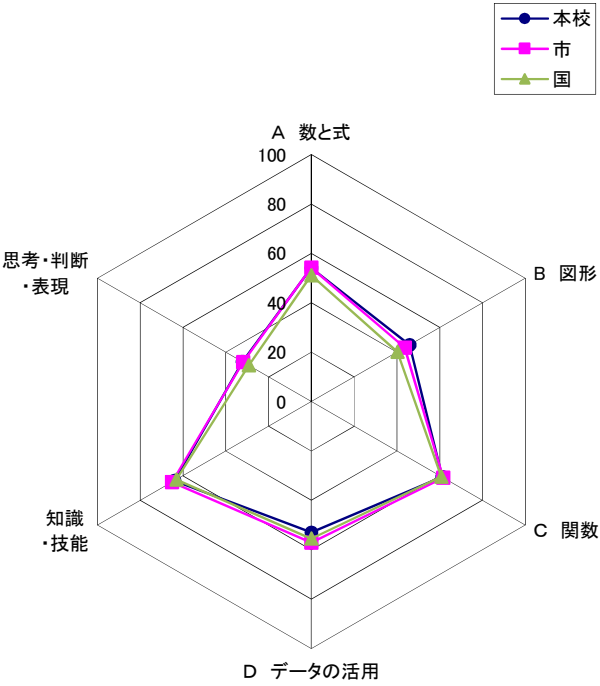
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	正答率は市を1.6, 国を1.7ポイント上回っている。 ○漢字に関する出題では, 県や国の正答率を7ポイント上回っていることから, 知識の定着が見られた。 ●短歌の表現技法に関する出題では, 県や国の正答率より2ポイントほど下回ったことから, 課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・単調な漢字練習ではなく, 熟語づくりなどをしながら語彙力を高める工夫を取り入れている。今後もこのような指導を継続していく。また, 書き取りに力を注ぐ生徒が多い一方, 読みが盲点となっている傾向が見られるので, 並行して学習するよう促していく。 ・俳句や短歌, 詩などの単元を中心に, 表現技法の理解ができるよう促していく。
(2) 情報の扱い方に 関する事項	正答率は市を0.9, 国を1.3ポイント上回っている。 ○情報の具体と抽象の関係を問う出題で, 県や国の正答率を3ポイントほど上回った。 ●情報の意見と根拠の関係を問う出題で, 県や国の正答率をやや下回ったことから, 課題が見られた。	・情報と情報の関係を理解しながら処理していく力を育てていく。自分の意見を裏付ける根拠の立て方や, 具体例をもとに分かりやすく伝達する構成について学習しながら, 自分の考えを明確に構築できる手立てを行う。
(3) 我が国の言語文化に 関する事項	正答率は市を8.8, 国を11.6ポイント上回っている。 ○行書の特徴について問う出題で, 県や国を10ポイント以上と大きく上回ったことから, 知識の定着とともに指導の成果が見られた。	・歴史的仮名遣いなどの基礎的な知識については, 機会を見ながら丁寧な指導を継続する。 ・和歌や古典作品を扱う際には, ねらいを明確にして, 知識理解や読解を一つずつ丁寧に行う。
A 話すこと・聞くこと	正答率は市を1.6, 国を4.6ポイント上回っている。 ○話し合いの内容を捉える出題や, 他者の発言を踏まえて自分の考えをまとめられるかについての出題では, 県や国の正答率を3ポイント以上上回った。 ●自分の考えが分かりやすく伝わるように話せるかについては課題が見られる。	・「聞くこと」では, 話し手の論旨を的確につかめるよう, 教材を通して具体的に学べるようにする。 ・自分の考えが分かりやすく伝わるよう, 話の構成の仕方や主旨の伝え方を学ぶ機会を設ける。
B 書くこと	正答率は市を2.3, 国を4.2ポイント上回っている。 ○自分の考えが伝わるよう文章を工夫して書けるかを問う出題で, 県や国の正答率を7ポイント上回った。 ●収集した材料を整理し, 明確に伝えられるかについて, 県や国の正答率を0.5ポイント下回った。	・自分の考えを正確に伝えられるようにするために, 表現の工夫に関する実践的な活動を取り入れる。 ・自分の意見とそれを支える根拠の示し方や, 論の構成の仕方などについて, 実際に書きながら学べるようにする。
C 読むこと	正答率は市を1.1, 国を2.9ポイント上回っている。 ○文章と図を結び付け, その関係を踏まえて解釈する出題で, 県や国の正答率を3ポイント上回った。 ●短歌の読み取りに関する出題では, 説明文や物語の読み取りは平均以上だが, 詩歌, 古典の読み取りで課題が見られる。	・文章だけから読み取る学習に加えて, 挿入されている図や表と文章を結びつけながら解釈する学習も行う。 ・読み取ったことをもとに自分の考えを構築する作業を多く取り入れる。アウトプットすることを通して, より読解力が高まるような学習を進んで行う。「書くこと」と関連づけていく。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	54.1	54.2	51.1
	B 図形	45.9	43.6	40.3
	C 関数	61.1	61.7	60.7
	D データの活用	53.0	57.1	55.5
観点	知識・技能	64.0	65.2	63.1
	思考・判断・表現	32.2	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は、国を3.0ポイント上回っているが、市を0.1ポイント下回っている。 ○文字を用いた式で表す問題で、正答率が県や国を10ポイント程度上回っており、文字式に関する技能が身に付いている。 ●等式を目的に応じて変形する問題で、正答率が県や国を下回っており、無回答率も県や国と比べて高い。	・基本的な計算力を高めるため、計算の復習問題を授業の最初に時間を設定する。 ・論述問題に取り組む場面を設定し、自分の考えを数学的な用語を用いて表現する場면을授業の中で積極的に取り入れる。 ・各学年の計算の授業において習熟度別学習を取り入れ、基礎・基本の確実な習得を図る。
B 図形	正答率は、市を2.3ポイント、国を5.6ポイント上回っている。 ○回転移動についての問題で、正答率が県や国を4ポイント程度上回っている。また、筋道を立てて考え、証明する問題では、正答率が県や国を8ポイント程度上回っており、証明することに対して抵抗が少ない様子が見られる。	・基本を定着させるように丁寧に支援をし、その後様々なパターンの問題を解かせ、応用力を高める指導方法を工夫する。 ・ICTを活用し、図形を自ら動かして、図形に対して多面的な見方が身に付くよう指導の工夫をする。 ・図形の証明に関する記述力を高めるために、穴埋め形式を取り入れるなど支援の工夫をする。 ・生徒の習熟度によって取り組む問題を変更し、個に応じて主体的に学べる場面を設定して活用する力を育む。
C 関数	正答率は、国を0.4ポイント上回っているが、市を0.6ポイント下回っている。 ○事象を数学的に解釈し、式やグラフを用いて説明する問題では、正答率が県や国を4ポイント程度上回っている。 ●一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかをみる問題で、正答率が県や国を3ポイント程度下回っている。	・比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数のそれぞれの関数の特徴をとらえさせ、表、式、グラフのつながりを確実にとらえられるよう、工夫して指導する。 ・授業の導入で、1、2年次の学習内容を復習し、学びのつながりを想起させる。 ・日常生活と関連付けた内容についての学習活動を取り入れることで関数に対する意欲を高めさせる。
D データの活用	正答率は、国を2.5ポイント、市を4.1ポイント下回っている。 ●簡単な場合の確率を求める問題やデータの最頻値を求める問題など、すべての問題で県や国の正答率を下回っており、基本的な知識・技能の定着が図られていない生徒が多い。	・資料の傾向をとらえ、代表値を用いるなど数学的な表現を用いて説明する力を身に付けられるよう、資料を読み取る練習を繰り返す。 ・グラフや箱ひげ図の特徴から読み取れる状況を説明し合う学習活動を取り入れる。 ・身近な資料を用いた教材を用いて、ヒストグラムや箱ひげ図を作成し、分析する学習活動を取り入れることで、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の1の「している」の回答が県を5.6ポイント、全国を8.6ポイント上回っている。要因は学校での生徒への食育の中で、「朝食を摂ることの大切さ」の啓蒙や家庭や地域が食事の大切さを意識している結果だと思われる。今後も食育について家庭、学校、地域が連携し考えていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の1の「当てはまる」の回答が県を3.5ポイント、全国を8ポイント上回っている。また、2の「どちらかといえば、当てはまる」の回答を含めても県・全国のポイントを上回っている。これは、人権教育やいじめアンケート、いじめ防止啓発集会の良い成果であると考えられる。実際のいじめ問題の対応も含め、防止のための啓発活動を適切に行うことを継続する。

○「人のために役に立つ人間になりたいと思いますか」の1の「当てはまる」の回答が県を4.9ポイント、全国を9.7ポイント上回っている。2学年の社会体験学習での体験や各学年においての『宇都宮学』宇都宮に関する課題解決学習を通して、職業感や働くことへのやりがいなどを考える中で、人のために役に立つ人間に興味・関心や目標的な考えをもっていることがうかがえる。総合的な学習の時間の指導の継続や道徳指導も連携させ考えていきたい。

●「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれぐらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の4、5、6の「30分以上、1時間より少ない」、「30分より少ない」、「全く使っていない」を合わせた回答が県で3.7ポイント、全国では4.6ポイント高い。生徒のICT機器の利用の仕方と教員のICT教育への取り組みから、各教科、宿題など決められたことに取り組むことはできると思われるが、応用活用に関連付けたりすることができるような指導を工夫していく。

宇都宮市立瑞穂野中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自主学習(学校の授業以外の学習)習慣を定着させる指導の実践	全校生徒が、毎日自主学習としてノート1ページ以上の学習をする。毎朝回収して、教員が内容を確認し、指導や賞賛などをする。定期的にAIDリルの課題を設定し、学級担任が学習状況の進捗を把握して個々の生徒の学習支援を行う。	「学校の授業以外に、1日当たりどれぐらいの時間、勉強しますか」の特に「土曜日や日曜日など学校が休みの日」では、「全くしない」の回答が県より3.4ポイント、全国より5.9ポイント低かった。学習時間が県や全国に比べ多いわけではないが、少しずつ自主学習習慣が定着していると考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の回答が50%を少し上回る程度に留まっている。 ・「分かる授業」の展開 ・授業力向上	・PC・タブレットなどのICT機器を使った授業を増やす。 ・各教科の学習を他の教科の学習と関連付け、積み重ねを行う。 ・一人一授業を実施し、校内研修で成果と課題を協議する。 ・各種学力調査の分析より、重点項目を検討し、授業を展開する。 ・基礎・基本の確実な定着	・研修会やミニ研究授業で積極的にICT教育や教材について学び、授業を行う。 ・次年度の達成状況を把握し、課題を検討し、向上を狙う。 ・数学において、習熟度別学習の効果的な実施。 ・「地域未来塾」での学習相談の実施。 ・テスト前放課後の質問時間により、基礎学力の定着を図る。